◇＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝［　第28号　］＝＝＝＝◇
唯契の窓　唯物論的社会契約論研究所月報　　　　　　　2020年8月1日
◇＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝◇

医師二人が、ALSを患った京都の女性を依頼に応じて殺害したとして、嘱託殺人の疑いで逮捕されました。ナイーブな話題ですが、唯物論的社会契約論の立場からは明確なコメントが可能です。

まず「自殺」をどう考えるかということですが、明確に認められません。なぜなら人類の存在目的が「より安定した生の再生産を行う事」にある以上、人間の生命を人為的に奪うことはいかなる場合であっても、それが他人であれ自己であれ、決して認められない行為だからです。

いささか酷薄な言いようかもしれませんが、難病に罹患した人の使命は、その病気と闘うことにあります。どんなに苦しくても闘病はして頂きたいのです。それが患者の義務だと筆者は思います。そしてそれに対する社会の側の義務は、患者がその病気と闘えるよう最大限のサポートをすることです。従って医療費は無料にするべきですし、患者本人の生活はもちろん、家族の生活も完全に社会が保障しなくてはなりません。患者が何の心配もなく病気と闘えるように保障することが必要なのです。

もちろん患者本人が病気を克服して治癒することが最も望ましい結末です。仮に治療方法が無く、回復が望めない状況であったとしても、その後に発症する人々の為に、少しでも治療方法の発見や確立のために頑張りぬく。それが自らが生きようとするとともに他者の役にも立つことなのであり、ヒト本来の在り方だと思います。

その立場からすると、逮捕された医師は「医師」としての資質が無かったのだろうと思います。何よりも頑張って生きようとする患者の努力に対する敬意が感じられません。生きることを「権利」ととらえてしまうなら、それを放棄する「権利」もおのずと生じてきます。しかしそれは違う。生きること・生きていることは当たり前のことで、それを保障する「義務」を社会は負っています。その社会の負託に応じて「医師」となったのであれば、その負託に応えきるのが彼らの義務だったはずです。

人権という考え方の脆弱さが如実に現れる問題として、記憶に留めなくてはならない、そして常に振り返らねばならない問題として取り上げておきたいと思います。

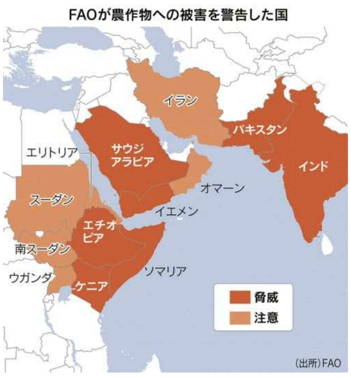
●＝＝＝＝［　時事批評　］＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝●

今月はコロナから少し外れて、食糧問題についてお伝えしたいと思います。

今年２０２０年は食糧危機の始まりの年となるかもしれません。地球の温暖

化によってもたらされる飢餓の予兆が世界各地から報告されています。

まずは砂漠トビバッタによる蝗害です。国連 WFP のレポートによると、「サバクトビバッタは世界の 20%もの土地に飛来し、65%の開発途上国に被害を出すと国際連合食糧農業機関（FAO）は予測して」[1]います。砂漠トビバッタの群れは「1平方キロメートルあたり 8 千万もの成虫が、1 日で 128 キロメートルも移動することもあり、人間 35,000 人分に相当する量の作物」[2]を食い尽くすとのことです。３月３日の時点で、中東のサウジアラビア・オマーン・イラン、東アフリカのエチオピア・ソマリア・ケニア・スーダン・南スーダン・ウガンダ、南アジアのインド・パキスタンに及んでいます[3]。また南米アルゼンチンでも発生しています[4]。



近年の砂漠トビバッタによる蝗害の発生は、従来のメカニズムとは異なるという指摘があります。これまでは、「草地が元々少なかったり、降水量が減って草地が減ったりすると、幼虫は残された餌場を求めて集まってくる。このような集団環境で育ったバッタが生む子の体色は、元来の緑ではなく、黄色や黒に変化」[5]して飛蝗となり、蝗害をもたらしてきました。ところが、近年は砂漠に比較的大量の雨が降り、砂漠トビバッタの生育条件が整ってしまうことで大量発生が誘発され、その結果蝗害が発生するようになったといいます[6]。今後蝗害の発生が常態化し、拡大することが懸念されます。

農業に被害をもたらす虫害は他にも広がっています。日本農業新聞はツマジロクサヨトウの中国での被害について次のように報告しています[7]。

「中国では 2018 年 12 月、南部の雲南省経由でツマジロクサヨトウが侵入。東北３省や西北の青海省、西武の新疆ウイグル自治区を除く、２６省区の１５３８県に拡大。発生面積は１００万ヘクタールに上り、１６万ヘクタールが深刻な被害を受けた」

この害虫は既に日本にも侵入しており、農水省は次のように警告しています。

---

1 WFP 日本レポート「サバクトビバッタの襲来は一刻を争う問題」(https://ja.news.wfp.org/20-30-79d639387941)
2 同。
3「バッタ大量発生、農作物の被害拡大」日本経済新聞 web 版２０２０年３月３日付
4 朝日新聞デジタル(https://www.asahi.com/articles/ASN6S3Q6CN6SUHBI00R.html)
5 Wikipedia による。
6 WFP 日本。前掲レポート。
7 日本農業新聞２０２０年４月２６日付

「ツマジロクサヨトウ（Spodoptera frugiperda）は、南北アメリカ原産の農業害虫で、とうもろこし、ソルガム、さとうきび、野菜類等、80 種類以上の作物に被害を与えること、1 世代で 500km、1 晩で最大 100km 移動するなど長距離飛翔することが知られています。
日本では、令和元年 7 月に初確認され、令和元年末までに西日本を中心として、21 府県で発生が確認されました。
農林水産省では、関係機関と協力の上、本虫のまん延の防止に向けた取組を実施しています。」[8]
本来熱帯地域の昆虫で「本種は休眠せず、低温になると活動や発育を停止する」[9]筈のツマジロクサヨトウが、昨年以来日本にも定着した原因はやはり地球の温暖化が原因と考えざるを得ないでしょう。

さらに温暖化による多雨化傾向に伴う豪雨災害も常態化してきました。
先日は九州地方(球磨川流域の氾濫)や中部地方での土砂災害(岐阜県下呂市など)でも大きな被害が生じました。
農林水産省による「令和 2 年 7 月豪雨に関する情報」によれば、被災した農地は 25 府県で 7,031ha に登ります。
水害が生じているのは中国でも同様で、長江流域の水害の模様がマスコミでも報じられています。中国政府からの正式報告がありませんので確実なことは分かりませんが、既に発表されている過去の水害(1998 年)を上回る被害が出ているのではないかと予測されています。その 1998 水害では 2153 万 ha の農地が被災しました[10]。日本の農地面積が 439.7 万 ha(令和元年)ですから[11]、その被害規模の大きさは想像を超えます。
今回の水害はそれをさらに上回る可能性があります。JAXA の GSMap[12]から、長江流域の周辺地域の降水量(6 月の 1 日当たり平均)を見てみると、長江の上流部に当たる苗族自治州(N36.3E107.6)で 20.7mm、羌族自治州(N31.7E102.1)で 20.4mm、流域沿いの重慶市(N29.7E106.9)で 13.2mm、荊州市(N30.4E112.3)で 10.6mm、武漢市(N30.6E114.3)で 12.8mm、南京市で 7.6mm、南通市(N32E120.9)で 13.7mm、上海市で 9.2mm などとなっています。ちなみに同じデータで熊本県の人吉市では 11.0mm、球磨村では 11.2mm ですから、その降雨量のすさまじさが想像できるでしょう。

---

8 農林水産省 HP(https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)
9 病害虫防除室
10 アジア防災センター。「中国洪水 1998 夏/秋」(https://www.adrc.asia/top_j.php)
11 農林水産省　農地に関する統計。
12 https://sharaku.eorc.jaxa.jp/GSMaP_CLM/index_j.htm

中国の河川は長く広い支流域を伴い、傾斜は比較的緩やかなため、上流部で降った雨が下流域の水位に反映するにはある程度時間がかかります。7 月 18 日の新華社電によれば、既に 23000ha の作物が被害を受けたと言います[13]。今後どの程度まで氾濫浸水面積が広がるのか、それによって被害の大きさが変わってくるでしょう。さらにこうした大きな河川によって海に運ばれる土砂などが海洋資源にどのような影響を与えることになるのか、ちょっと想像しがたいものがあります。

気候変動は気温にも影響を与えます。熱帯地域の水蒸気量が増えれば、当然雲が発生します。この雲が北上してくると雨を降らせるのですが、そればかりではなく、日照にも影響を与えます。既に日本でも日照不足や低気温による作物の生育不良などの被害も出始めています。

同様に、天候不順を原因とした小麦等の生産見込みも各国で下方修正され、「生産量予想では欧州連合（EU）が 150 万トン、ロシアが 50 万トン、米国は 146 万トン」減少すると見込まれています[14]。

こうした食糧生産の減少は一過性のものかというと、必ずしもそう言い切ることができないところに気候変動問題の重要性があります。中国が自国の食糧不足をまかなうために[15]、世界の食糧市場からそれを調達しようとすると、当然食糧価格は値上がりを始めるでしょう。自国の食糧を海外の食糧市場に頼らざるを得ない国々では一挙に食糧難に陥る恐れがあります。NHK 解説委員 合瀬宏毅氏は次のように述べています[16]。

暴動がアフリカで多発しているのは、食料の多くを海外に依存している国が多いからだ。アフリカでは人口の 70%が農村に居住しているものの年々都市化が進み、食料の自給率はコメで 60%、小麦は 30%程度にとどまり、多くはアジアや北米からの輸入に頼っている。

日本でも４月に政府の小麦売り渡し価格が 30%値上げされ大きな話題になっ

---

13 新華社通信　2020/07/18　重慶市洪水制御・干ばつ救援本部によると火曜日に暴風雨が自治体を襲い始めて以来、31 地区・郡の約 55 万人の住民が影響を受けている。また、約 23,000 ヘクタールの作物が被害を受け、1,000 戸以上の家が破壊された。 集中豪雨は、揚子江と五江の水位を上げた。長江の主要支流である五江沿いの水文観測所の水位は、5.55 メートル上昇して 225.03 メートルになり、土曜日初めに警報レベルを超えた。重慶東部の小河川の水位はさらに上昇すると予想される。

14 小麦の世界生産を下方修正　米農務省需給報告　日本経済新聞 web　2020 年 7 月 13 日

15 農業農村部は「今年の食糧生産量は、必ず６億５０００万トン以上を実現しなければいけない」と強調している。日本農業新聞２０２０年４月２６日付

16 「食糧危機と日本の責任」NHK 解説委員 合瀬宏毅(ＮＩＲＡ政策レビューNo32。2008 年)

たが、食費が家計に占める割合が８割に上るとされる特にサハラ砂漠以南のアフリカ諸国では、値上がりが直接社会不安に結びつく深刻な問題となっている。

　ただしアフリカ諸国がこのような実情にあるのは、歴史的な背景があってのことです。ハンガー・フリー・ワールド（HFW）は、次のように指摘しています[17]。

　開発途上国のなかには、主食の穀物を海外からの輸入に頼っている国が少なくありません。これには、植民地時代に支配国からコーヒーやカカオなど、先進国に輸出するための作物の生産を押しつけられてきた歴史が関係していますが、それでは国際市場で作物の価格が変動したときに大きく影響を受けてしまいます。特に、農作物の不作などにより価格が高騰するような場合にはなおさらです。たとえば、1993 年に日本で起こった米騒動。冷夏による米の不足で困った日本が世界中から米を買ったその影で、穀物を輸入に頼る開発途上国のなかには米を買えなくなり、飢餓に陥った国があったと報告されています。

　ところで、こうした食糧生産にとって多くの困難が生じていることが、即世界的な飢餓に結びつくというようなことを言いたいわけではありません。飢餓問題の原因はそれほど単純なものではないのです。実はここにもう一枚のカードが加わることが飢餓問題を引き起こすことになるのです。それが先物取引とよばれる投機的な資本の利潤追求行為です。

　先物取引について大和証券が次のように解説しています[18]。

　先物取引とは、

　（1）「特定の商品（原資産）」を、

　（2）「将来の一定期日」までに

　（3）「取引時点で定める価格」で

　取引することを約束する取引のことで、「特定の商品（原資産）」の「取引時点で定める価格」と「将来の一定期日」における価格との差額で収益を得ようという取引です。

　つまり、食糧（の価格）を賭け事の対象にするということと同義です。このような行為が、実際の食糧（特に穀物）の交換価値以上の相場価格を作り上げ、発展途上国の食糧購買力を奪ってしまうのです。

　このため日本においては食糧管理制度と相いれないものとして長らく穀物の

---

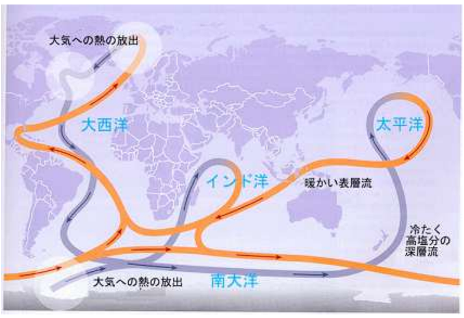
17 https://www.hungerfree.net/hunger/food_world/
18 https://www.daiwa.jp/products/option/guide/

先物取引は禁止されてきました[19]。その後米の輸入自由化(1999 年 4 月)などと並行しながら準備が進められ、先日大阪総合取引所の設立(2020 年 7 月 27 日)で穀物の先物取引が自由に行われるようになりました。まさに世界の食糧危機を加速するかのような政策がすすめられているのです。

　地球の温暖化が人為であるということも問題ですが、それによって生じてくる様々な問題が拡大していくのもまた人為であるということです。自国優先主義あるいは利益優先主義の経済の仕組みを根底から変える必要が、ここからも見えてくるように思われます。
　いま経済の仕組みを変えていかないと、食糧危機の脅威は毎年のように人類に突きつけられるようになるのではないか。今後とも注視していきたい課題です。

●＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝●

★＝＝＝＝＝[コラム]＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝★



　今月は熱塩循環と気候変動について考えてみたかったのですが、はっきり言ってこの問題はとても難しく、何かを語るという水準まで知識を高めることができません。
　そこで筆者が疑問に思っていることをいくつか挙げておくにとどめることにします。それに先立って少し基本的な知識を紹介させていただきます。
　熱塩循環とは、地球の気候を大きく規定している地球規模の海水の循環のことだと思っていただいて良いと思います。その流れはメキシコ湾流が大西洋を北上してヨーロッパの高緯度地方に熱を届け、そこで冷やされて水蒸気を放出して塩分濃度が濃く冷たい海水となって沈み込み、海洋の下層流となって南下し、南半球を東に流れ、アフリカの南で分岐し、一本はアフリカ大陸とマダガスカル島の間を通ってインド洋北部で湧き上がります。もう一本はそのまま東進してニュージーランドの東側から北上して北太平洋で湧き上がります。北太平洋で湧き上がった海流はアメリカ方面に東進したのち温められながら南下、赤道付近から西に流れインドネシアとオーストラリアの間を進んで北インド洋で湧き上がった海流と合流し南インド洋で二つに分岐、一本はそのまま西進し

---

[19] 食糧管理法は 1995 年 11 月 1 日に廃止された。大阪堂島商品取引所で米の先物取引が開始(再開)されたのは 2011 年である。

てメキシコ湾流となります。いま一本は南太平洋を南下して東進しはじめ、南太平洋を横断して南大西洋に入り、ここでさらに分岐して一本はメキシコ湾流となり北上をはじめます。もう一本は更に東進して南インド洋で先ほどの東進する海流と合流します。この時一部の海流は南アメリカの南方沖で熱を放出して冷たく濃い海水となって沈み込み、大西洋を南下してきた下層海流と合流します。一周するのに 1000 年はかかるという非常に大きな循環となっています。

　ここで筆者の疑問なのですが、最近インド洋からインドネシア・フィリピン辺りの海水温の上昇によって大量の水蒸気が発生し、東アジアの大雨の原因となっているわけですが、ここで作られる濃くて暖かい海水はこれまでの熱塩循環に何らかの変化をもたらすことはないのでしょうか。あるいは水蒸気の形で急速に北東アジアに運ばれた水（真水）が河川を通じて海洋に流出すると、太平洋西北部で温かく薄い海水が海洋表層を覆うことになりますが、これは従来の太平洋北部の湧き上がりポイントを移動させてしまうことはないのだろうか、という疑問も生じます。

　そしてそれが地球の気候の大変動につながることはないのだろうかと。一緒に頭を悩ませていただける方、募集しております。

★＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝★

次回の発行は９月１日を予定しております。